

ライフセービング 本多 辰也 選手



大学からライフセービングを始め、8年前にクイーンズランド州でライフセービング活動を行った。常に自分を磨き、さらなる上を目指す本多選手は、今年も全豪選手権大会に出場した。パース滞在がわずか2泊3日という強行スケジュールは、ただこの大会に出場するためだけだった。出場は今回で8年連続8回目。本多選手は、今年の全豪選手権大会でどのような次への一步を見つけたのか。



本多 辰也 (ほんだ たつや)

1976年6月25日生まれ、茨城県出身。高校までラグビーをやっていたが、専修大学時代にライフセービングの活動に魅了されて転身。ビーチでの競技を得意とし、昨年の全日本選手権ではビーチスプリントで1位、ビーチフラッグスでは2位となる。全豪選手権には今年で8年連続8回目の出場。東京消防庁ライフセービングクラブ、今井浜ライフセービングクラブ所属。

174cm、70kg。

ライフセービングとは

水辺の安全を守る活動のこと。水辺を利用する人々に起こる事故を未然に防ぐために監視を行い、必要によっては指導や救助をする。また、子どもや一般向けの教育活動も行い、個人レベルでの水辺の知識も高めている社会奉仕活動。ライフセービング競技は、ライフセーバーたちの体力や技術などを向上することを目的に行われている。

全豪選手権大会とは

英名は Australian Surf Life Saving Championships で、「The Aussies (オージーズ)」の名で親しまれている。ライフセービングの競技会としては世界最大級の規模とレベルの高さを誇る、オーストラリア国内最大の大会で、毎年夏の終わりに開催される。今年は4月1日から6日にパースのスカポロビーチで行われ、同地では来年までの開催が決まっている。

